

ARTS

COUNCIL

TOKYO



2024年度を振り返って — 3

アーツカウンシル東京とは — 4

数字で振り返るアーツカウンシル東京2024 — 6

助成事業 — 10

活動支援事業 — 14

人材育成事業 — 18

芸術文化の創造・発信事業 — 22

参加・体験機会の創出事業 — 26

地域連携の促進 — 30

クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー — 34

デジタルシフトへの対応 — 38

ネットワークの形成 — 42

調査分析 — 43

○写真クレジット

	01	02
		03
04		
05	06	
	07	08

P1
01・大巻伸嗣 Memorial Rebirth 千住 2024 舎人公園 撮影：富田了平
02・Kunitachi Art Center 2024
03・東京大茶会2024 浜離宮恩賜庭園会場 野点
04・キッズ伝統芸能体験 三曲（単曲） 撮影：武藤奈緒美
05・TURN LAND プログラム
撮影：梅田 彩華、TURN LAND プログラム関係者
06・パフォーマンスキッズ・トーキョー「ペーターヴェンを踊れ！」
撮影：金子愛帆
07・大人のための伝統文化・芸能体験事業 能楽（鑑賞）
photo：KOTA SUGAWARA
08・だれもが文化でつながる国際会議2024
文化と居場所 アートが開く新たな未来

P21
タレンツ・トーキョー2024

P23
写真上・神楽坂まち舞台・大江戸めぐり2024 神楽坂路上界限 新内流し
写真下・伝承のたまてばこ2024 八王子芸術祭

P24
写真上・六本木アートナイト2024 ©六本木アートナイト実行委員会
高橋匠太（ボンギリングーひかりの花のパレード）
写真下・Shibuya StreetDance Week 2024 BATTLE PARK

P27
写真上・キッズ伝統芸能体験 長唄囃子（篠笛） 撮影：武藤奈緒美
写真下・大人のための伝統文化・芸能体験事業 太神楽曲芸（体験）
photo：MAEGAWA TOSHIYUKI

P28
写真上・こどもファッションプロジェクト
「ファッションショー&バックヤード体験プロジェクト」
写真下・キッズユースオープンキャンパス
「電子工作キットでゲーム作成体験」 提供：多摩美術大学

P36
だれもが文化でつながる国際会議2024 ロビーギャラリーのようす

P41
CCBT×SHIBUYA FASHION WEEK 2025 Spring
「CIVIC CANVAS：ワークショップ成果作品上映」

表4
全地球上映「観察報告：空の証言」 撮影：竹久直樹

東京における芸術文化の創造と発信は、国内だけでなく海外からも熱い視線を集めています。芸術文化の創造活動と発信活動を活発に行い、生活の中の文化を充実させることができれば東京の魅力は一層高まります。アーツカウンシル東京の活動が目指すのは、そのような充実した創造力豊かな文化活動を通じて清新で活力ある社会の実現に寄与することです。

2024年度は、これまでの取組を着実に進展させるとともに、新たな取組や重点的な取組についても成果を上げることができました。

【助成】 助成事業では、昨年度に引き続き申請数・採択数が高水準で推移し、それぞれのプログラムの目的に応じた新たな団体への支援拡大につながっています。今年度の新設した「東京芸術文化鑑賞サポート助成」については、円滑な運用ができ、今後の鑑賞サポートに対するニーズの掘り起こしや関心の高まりに寄与しました。

【活動支援・人材育成】 東京芸術文化相談サポートセンター「アートノト」は、開設2年目を迎え、各機能の充実を図り、取組や活動の幅を広げました。若手アーティストの創作環境の整備事業「START Box」、制作・発信支援事業「TAAP」、「アートマネジメント人材等海外派遣プログラム」も、それぞれ2年目となり、事業運営もより安定し、今後の活動支援につながっています。

【芸術文化の魅力創出・発信】 子供たちがより深く芸術文化に触れることができるよう、新規事業として「ネクスト・クリエイション・プログラム」を立ち上げ、これまでとは異なる創作体験を提供することができました。地域連携の促進では、区市町村や独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）などとの連携を深めることにより、新たな展開が芽生え始めています。

【クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー】 「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー」では、2回目の国際会議を東京国際フォーラムで開催し、7,000名の来場者を集め、情報共有と人的ネットワークの形成に大きく貢献しました。また、都立文化施設のアクセシビリティの向上に向けて、社会共生担当を各館に配置するなど、着実に環境整備を進めています。

【デジタルシフトへの対応】 財団全体で部署・施設を横断して取り組む「TOKYOスマート・カルチャー・プロジェクト」では、収蔵品のデジタルデータ公開を着実に進めるとともに、貴重資料のデジタル化や映像資料のマイグレーションなど、オンライン公開に向けたデジタル化を幅広く進めています。シビック・クリエイティブ・ベース東京〔CCBT〕では、「アルスエレクトロニカ」や渋谷区との連携などにより外部での作品発表も積極的に行い、認知度を高めました。

【ネットワークの形成・調査分析】 調査分析事業では、多摩地域の文化資源に関するプレ調査を実施し、リサーチを通じて関係者との関係構築にもつながりました。ネットワークの形成については、区市町村レベルから国際的なレベルに至るまで、機会を捉えた取組を継続しています。

激動する世界と複雑さを増す今日においてこそ芸術文化が持つ力を発揮すべき時であり、芸術文化都市東京の魅力向上に向け、アーツカウンシル東京は、付託された役割を果たしてまいります。

アーツカウンシル東京
機構長 青柳正規



アーツカウンシル東京とは

世界的な芸術文化都市東京として、
芸術文化の創造・発信を推進し、
東京の魅力を高める多様な事業を展開しています。

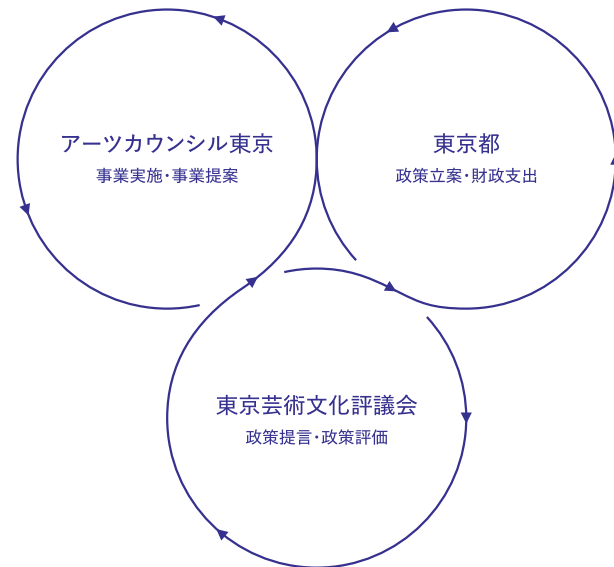
アーツカウンシル東京は、新たな芸術文化創造の基盤整備をはじめ、東京の独自性・多様性を追求したプログラムの展開、多様な芸術文化活動を支える人材の育成や国際的な芸術文化交流の推進などに取り組みます。

○設立趣旨

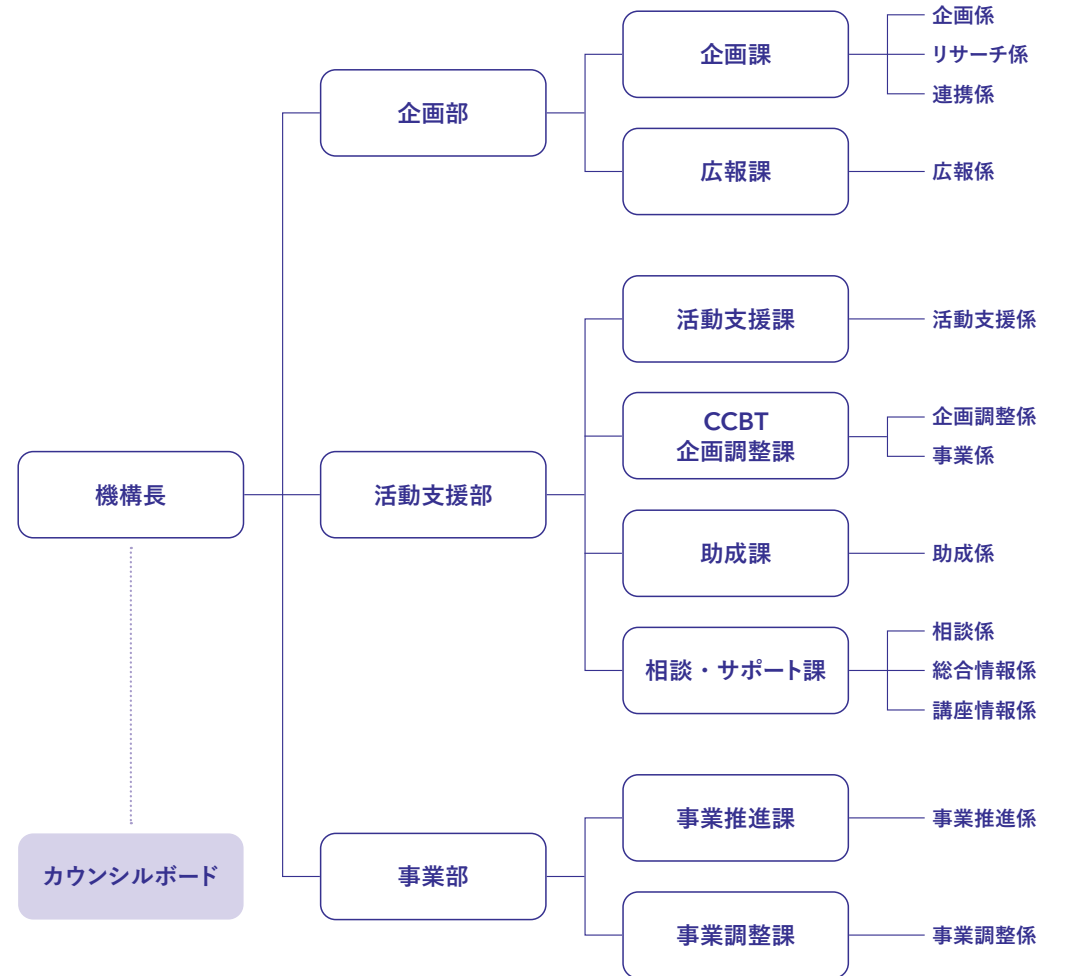
- ・芸術団体や民間団体、NPO等と協力し、東京における芸術文化創造のさらなる促進や東京の魅力向上を図ります。
- ・国際都市東京にふさわしい個性豊かな芸術文化創造や、創造性に満ちた潤いのある地域社会の構築に貢献していきます。
- ・芸術文化の自主性と創造性を尊重しつつ、専門的かつ長期的な視点に立ち、新たな芸術文化創造の仕組み・環境を整えます。

○アーツカウンシル東京の位置づけ

アーツカウンシル東京は、公益財団法人東京都歴史文化財団の一組織として、東京芸術文化評議会での政策提言やこれを踏まえた東京都の芸術文化政策のもと、事業を実施します。また、事業評価およびカウンシルボードでの議論などを踏まえ、東京都への事業提案なども行っています。



○組織図



○カウンシルボード

カウンシルボードは、必要に応じてアーツカウンシル東京の事業や施策、担うべき役割などについての助言を行います。

◎委員（※五十音順）

- ・小沼 純一（早稲田大学文学学術院教授）
- ・陣内 秀信（法政大学名誉教授）
- ・久野 敦子（公益財団法人セゾン文化財団常務理事兼事務局長）
- ・宮城 聡（演出家／SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督）
- ・吉野 律（国立新美術館国際連携室プロジェクト・マネージャー）
- ・若林 朋子（プロジェクト・コーディネーター／立教大学大学院社会デザイン研究科特任教授）
- ・綿江 彰禪（一般社団法人芸術と創造代表理事）

数字で振り返るアーツカウンシル東京

2024

アーツカウンシル東京の活動を数字で振り返ります。

○助成事業

申請件数

2,603 件

採択件数

822 件

交付決定総額

12 億 **9,843** 万 **7,700** 円

※「東京芸術文化鑑賞サポート助成」は除く

○活動支援事業

「アートノト」

相談対応件数

1,061 件

公式ウェブサイト等閲覧数

17 万 **6,339** 件

講座申込者・動画視聴回数

2 万 **4,263**

「START Box」

利用者数

22 人

○芸術文化の創造・発信事業

フェスティバルやイベントを開催

来場者数

約 **84** 万人

※オンライン含む

○人材育成事業

- Tokyo Artist Accelerator Program (TAAP)
- タレント・トーキョー2024
- アートマネジメント人材等海外派遣プログラム

参加者数

37 人

○参加・体験機会の創出事業

参加・体験プログラムを実施

事業数

6 事業

参加者数

8,205 人

○地域連携の促進

東京アートポイント計画

拠点形成事業

参加者数

2 万 **60** 人

環境整備事業

参加者数

1,607 人

※オンライン含む

東京都・区市町村連携事業

連携自治体

3 自治体

参加者数

1,340 人

※オンライン含む

○クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー

都立文化施設でのアクセスプログラム実施数

120 件

「だれもが文化でつながる国際会議2024」

参加者数

約 **7,000** 人

○デジタルシフトへの対応

シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]

イベント数

143 件

イベント参加者数

約 **2** 万人

TOKYO スマート・カルチャー・プロジェクト

東京都の収蔵品のコレクションをオンラインで紹介する「Tokyo Museum Collection」

公開点数

約 **25** 万点

○主催事業を実施した地域

42
区市町村



助成事業は、芸術文化支援の専門機関であるアーツカウンシル東京の中核事業です。2012年の発足以来、芸術文化の自主性と創造性を尊重し、専門的かつ長期的な視点に立って創造活動を支援する仕組みの整備を進めてきました。発足当初は1種類であった助成プログラムも、地域文化や伝統芸能の振興、社会・都市が抱える課題に取り組む芸術文化活動など、芸術文化の社会的役割の変化に応じて対象を拡大し、現在は10種類のプログラムを展開しています。各プログラムでは、活動内容に応じた助成対象・年数・金額・分野を設定し、多様な創造活動を支援しています。

各分野の専門的な知識を有するプログラムオフィサーや有識者により審査を行っており、公平かつ公正に助成金を交付する体制を整えています。なお、助成金の申請をはじめとする事務手続きのオンライン化を進め、申請者の負担軽減と制度の利便性向上を図っています。

2024年度の振り返り

「東京芸術文化創造発信助成」では、東京の都市としての魅力向上に寄与する多様な創作活動を支援しており、2024年度には2年間又は3年間にわたり継続して助成する長期助成に映画分野を対象とする事業を追加しました。これにより、新たな団体への支援拡大につながりました。次年度には、さらに映画分野に特化した新カテゴリーの設置を予定しています。

「伝統芸能体験活動助成」では、従来の対象に加えて華道・茶道・書道を新たに支援対象としたことにより申請数・採択数が増加し、幅広い分野で本プログラムの目的に沿った支援を実現しました。

2023年度にコロナからの回復を目指して開始した「東京ライブ・ステージ応援助成」では、これまでに600件以上の舞台芸術（演劇・舞踊・音楽など）活動を支援しました。各団体からの実績報告において、本助成が団体のマネジメント支援や活動維持に大きく貢献していることが確認されました。

2024年度に新設した「東京芸術文化鑑賞サポート助成」では、芸術文化事業を実施する民間団体などによるアクセシビリティ向上の取組を対象に支援を行いました。新制度ながら47団体を採択し、鑑賞サポートに対するニーズの掘り起こしや芸術団体間での関心の高まりに寄与しました。今後は鑑賞者への周知にも力を入れていきます。

そのほか、新進の芸術家や芸術団体が挑戦する新たな芸術創造活動を支援する「スタートアップ助成」、発信力・持続力のある革新的なプロジェクトを対象とした「芸術文化魅力創出助成」などについても、申請数・採択数ともに高水準で推移し、安定的に支援することができました。

○東京芸術文化創造発信助成

東京における多様な創造活動や環境整備活動、国際的な創造活動・発信活動などを助成。若手からベテランまでキャリアごとの助成のポイントを設け、特に若手・中堅を重点的に支援します。単年助成と長期助成があり、長期助成では2年間又は3年間の継続的・段階的な取組を必要とする事業を支援します。

対象となる芸術分野：音楽、演劇、舞踊、美術・映像（映画）、伝統芸能、複合（核となる分野を特定できない芸術活動）



団体名：ケダゴロ
事業名：代が君・ベロベロ・ケルベロス
©Toshie Kusamoto

○芸術文化による社会支援助成

様々な社会環境にある人がともに参加し、個性を尊重し合いながら創造性を発揮できる芸術活動や、芸術文化の特性を活かし社会や都市の様々な課題に取り組む活動を支援します。（最長3年間までの優先的支援制度あり）



団体名：特定非営利活動法人東京ソテリア
事業名：「精神保健と芸術表現～人形劇の世界～ 人形劇で表現するこころの健康 一私たちは何に抗うか～」

○地域芸術文化活動応援助成

都内各地域の特色ある文化の醸成・発展を促進する芸術文化活動や、各地域の文化財や文化資源を未来に向けて継承し、その魅力を地域内外に広く発信する取組を支援します。

対象となる事業：無形民俗文化財活用事業、有形文化財（建造物）・歴史的建造物等活用事業、地域文化資源活用事業、地域の文化魅力づくり事業



団体名：染の小道実行委員会
事業名：染の小道2025

○スタートアップ助成

東京の芸術シーンで活動を展開していこうとする新人芸術家や新進の芸術団体による、新たな芸術活動へのチャレンジを支援します。

対象となる芸術分野：音楽、演劇、舞踊、美術・映像、伝統芸能、複合（核となる分野を特定できない芸術活動）



事業者名：根本祐社
事業名：「人」
《ヒューマン・ゴム》 撮影：三保谷得史

○伝統芸能体験活動助成

伝統芸能の振興に向けて、自ら伝統芸能の実技体験を行う人が増えるための取組を支援します。

対象となる芸術分野：日本の伝統芸能（箏曲・地歌、尺八、笛、邦楽囃子、長唄、各種浄瑠璃、琵琶楽、雅楽、能・狂言、日本舞踊、華道、茶道、書道）



団体名：一般社団法人玉の緒会
事業名：「3カ月で三味線できるかな？」

○芸術文化魅力創出助成

より多くのアーティストやスタッフの支援につなげるため、複数の団体や多くのアーティストが参加する持続力・波及力のある革新的な創造活動、フェスティバルやアートプロジェクトを支援します。

対象となる芸術分野：音楽・演劇・舞踊・美術・写真・文学・メディア芸術（映像・映画、マンガ、アニメ、ゲームなど）・伝統芸能・芸能・生活文化（茶道、華道、書道など）・ファッション・建築・特定のジャンルにとらわれない芸術活動（複合）など



団体名：高校生ライブ MUSIC DAYS 実行委員会
事業名：高校生ライブ MUSIC DAYS
MUSIC DAYS 2024 FINALダンス部門
撮影：FACE-ON

○TOKYO CITY CANVAS 助成 （芸術文化魅力創出助成）

東京都の新たな文化プロジェクト「TOKYO CITY CANVAS」の一環として、東京のまちなかで展開される工事現場の仮囲いなどを活かし、アートによって魅力的な空間を創出し、都市の新しい景観を生み出す民間主導で実施されるアートプロジェクトを支援します。

対象となる芸術分野：アートプロジェクト



団体名：三菱地所株式会社
事業名：YURAKUCHO ART SIGHT PROJECT
YURAKUCHO ART SIGHT PROJECT Vol.05
撮影：TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH

○ライフウィズアート助成

アート作品を都民の日常生活の中に根付かせて、アーティストの活動領域を広げる基盤整備を進めることで、芸術文化に携わる人材を増やし、好循環を生み出す取組を支援します。

対象となる芸術分野：視覚芸術（ビジュアルアート）全般 ※異分野との協働も可



BENTEN 2024 撮影：上原俊

○東京ライブ・ステージ応援助成

東京の芸術文化の多様性を支える中小の団体による舞台芸術（演劇、舞踊、音楽など）活動を対象に、芸術文化の創造・発信を支援します。

対象となる芸術分野：演劇、舞踊・舞踏、音楽（クラシック、ポップスなどライブ全般）、伝統芸能、その他複合的な舞台芸術活動



団体名：MPLUSPLUS 株式会社
事業名：「Birth of DJ」

○東京芸術文化鑑賞サポート助成

芸術文化がもたらす感動を誰もが共有できる都市・東京を創出するため、鑑賞者・参加者を対象とするアクセシビリティ向上を目的とした取組を支援します。

対象となる芸術分野：音楽、演劇、舞踊、美術、写真、メディア芸術（映像・映画、マンガ、アニメ、ゲームなど）、伝統芸能、芸能、生活文化（茶道、華道、書道など）、特定のジャンルにとらわれない芸術活動（複合）など



団体名：タカハ劇団
事業名：タカハ劇団「他者の国」
タカハ劇団「他者の国」(2025) 撮影：塚田史香

2024年度 助成プログラム採択状況

事業名	採択件数
東京芸術文化創造発信助成	146件
芸術文化による社会支援助成	23件
地域芸術文化活動応援助成	54件
スタートアップ助成	152件
伝統芸能体験活動助成	18件
芸術文化魅力創出助成	56件（サポート費は除く）
TOKYO CITY CANVAS 助成（芸術文化魅力創出助成）	3件
ライフウィズアート助成	7件
東京ライブ・ステージ応援助成	316件
東京芸術文化鑑賞サポート助成	47件

活動支援事業

活動支援事業は、東京都内で活動するアーティストやあらゆる芸術文化の担い手の持続的な活動を支援する事業です。芸術文化活動に関する相談窓口や講座事業などによる総合的なサポート情報の提供、創作スペースや作品発表の機会の提供を通じて、創造活動を継続し発展させるための多角的な支援を行っています。

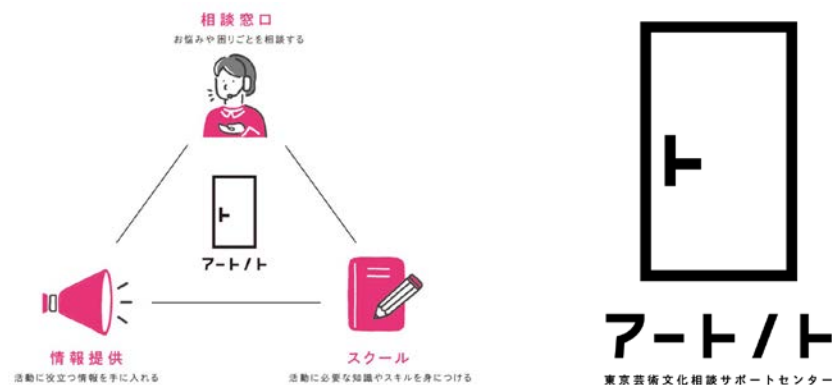
東京芸術文化相談サポートセンター「アートノト」は、2024年に開設2年目を迎え、出張相談の実施やLINE公式アカウントの新規開設、社会の動きを捉えた講座の提供など、各機能の充実を図り、取組や活動の幅を広げました。また、アートノトが持つ「相談窓口」、「情報提供」、「スクール」という3つの機能の連携を図るとともに、他部署との連携や外部専門機関とのネットワーキングを促進し、効果的かつ総合的なサポートを提供しています。今後は、芸術系大学の学生を対象とした出張講座を新たに開講するほか、対面出張相談を多様な場で実施するなど、アウトリーチ活動を充実させ、より身近な存在になることを目指します。

若手アーティストへ創作環境を提供する「START Box」では、利用しやすい料金で創作スペースを貸し出すほか、地域との交流や作品発表の機会も創出し、継続的な活動を支援しました。2024年度は、22名のアーティストへ創作の場を提供するとともに、6回のオープンアトリエを実施し、地域の方々との交流を行ったほか、利用者の合同作品展を2回開催しました。今後は、アトリエに加え、舞台芸術活動を対象とした稽古場の提供も行います。

東京芸術文化相談サポートセンター「アートノト」

アートノトとは…

東京都内で活動するアーティストやあらゆる芸術文化の担い手の持続的な活動を支援し、新たな活動につなげるためのプラットフォームです。オンラインを中心に、専門家などと連携しながら総合的にサポートしています。アートノトは芸術文化に関する知識や経験を持つ相談員が悩みや困りごとに対応する「相談窓口」、芸術文化活動に役立つ情報を様々なメディアでお届けする「情報提供」、第一線で活躍する講師陣が活動に必要な知識やスキルを提供する「スクール」の3つの機能を持ち、多角的なサービスを提供しています。



相談窓口

アーティストやあらゆる芸術文化の担い手が直面する悩みや困りごとの相談に対応。また、都内3か所での対面による出張相談を実施しました。

対応件数：921件

出張相談

MEET YOUR ART FESTIVAL 2024

開催日：2024年10月12日(土)～14日(月・祝)

会場：天洲洲運河一帯

対応件数：31件

だれもが文化でつながる国際会議2024

文化と居場所 アートが開く新たな未来

開催日：2024年10月29日(火)～11月3日(日・祝)

会場：東京国際フォーラム ロビーギャラリー

対応件数：29件

ART JOB FAIR 2025

開催日：2025年2月1日(土)、2日(日)

会場：TODA HALL & CONFERENCE TOKYO HALL B

対応件数：80件

情報提供

芸術文化活動を行ううえで生じる様々な悩みや困りごとの解決に役立つ情報を、公式ウェブサイト、YouTube、note、LINEなど、複数のメディアプラットフォームを活用して一元的に発信しました。

公式ウェブサイト等閲覧数：176,339件

スクール

創造の現場で必要不可欠な知識から時事的なトピックについての解説まで、9テーマ・39講座をオンラインを中心に受講料無料で開講。また、ほぼすべての講座を公式YouTubeチャンネルでアーカイブ公開しました。

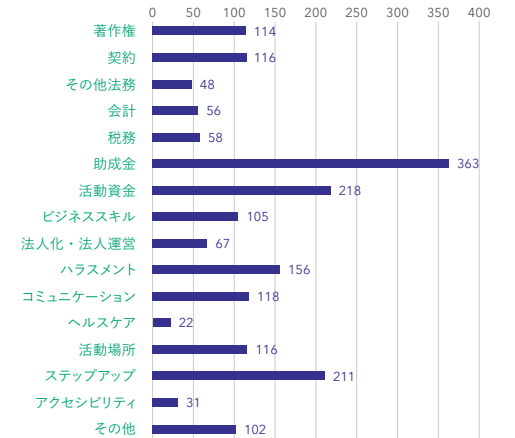
○2024年度 講座ラインナップ

アクセシビリティ講座 ハラスメント防止講座 法務講座 社会保障・セルフケア講座 会計・税務講座

国際活動講座 ファンドレイジング講座 ビジネススキル講座 キャパシティビルディング講座

講座申込者・動画視聴回数：24,263

相談内容別件数



集計期間：令和6年4月～令和7年3月
n = 1,901



アートノト出張相談の様子

START Boxとは…

都営住宅などの空き店舗を活用し、アトリエなどを確保するのが難しい若手アーティストに対して、低廉な料金で創作場所を提供し、継続的な活動を支援する事業です。2024年度は「START Box ササハタハツ」と「START Box お台場」の2つの拠点を運用しました。また、創作場所の提供だけでなく、地域住民やアーティスト同士の交流を深めるための地域交流イベント「オープンアトリエ」や、START Boxを利用するアーティストの作品を展示する「START Box EXHIBITION」などを実施しています。



施設紹介

START Box ササハタハツ

○2024年度利用アーティスト(20人)

三本木 欽(インスタレーション)・谷口真人(メディアアート)・田中唯子(版画)・林田真季(写真)・YUSEI(絵画)・ヒラヤマミオ(絵画)・藤野遼太(イラストレーション)・広光(絵画・写真)・中村亮一(絵画)・阿久根瑠聖(絵画)・Junko Awatani(絵画)・中村雅奈(絵画)・島田萌(絵画)・YUH TAKUNO(絵画)・岡田舞子(写真)・金丸知樹(絵画)・正木美穂(絵画)・野々山裕樹(写真)・WAKO(絵画)・趙里奈(メディアアート)

・笹塚

渋谷区笹塚二丁目42番
都営笹塚二丁目アパート42-15号棟1階
広さ:約17㎡(全3区画)
アクセス:京王線「笹塚駅」から徒歩約6分



START Box ササハタハツ(笹塚) 撮影:原口良太

・幡ヶ谷

渋谷区幡ヶ谷二丁目52番
都営幡ヶ谷二丁目第2アパート52-1号棟1階
広さ:約15㎡(全3区画)
アクセス:京王新線「幡ヶ谷駅」から徒歩約7分
利用期間:約3か月または約6か月



START Box ササハタハツ(幡ヶ谷) 撮影:原口良太

START Box お台場

○2024年度利用アーティスト(2人)

藤瀬朱里(ドローイング)・尾形凌(絵画)

港区台場一丁目5番4号
トミンハイム台場五番街4-101
広さ:約57㎡(1区画)
アクセス:ゆりかもめ「お台場海浜公園駅」から徒歩約3分
りんかい線「東京テレポート駅」A出口から徒歩約7分
利用期間:約6か月



START Box お台場 Photo: tatsuki nakata

オープンアトリエ(地域交流イベント)

地域交流イベントとして、START Boxを利用するアーティストが、自身のアトリエに作品を展示し、自由に鑑賞してもらうオープンアトリエを定期的で開催し、アーティストと地域住民などの相互の交流の機会を創出しました。



Photo: tatsuki nakata

START Box ササハタハツ

開催日:2024年6月23日(日)、9月15日(日)、
11月10日(日)、2025年3月29日(土)
来場者数:延べ615人



Photo: tatsuki nakata

START Box お台場

開催日:2024年9月28日(土)、29日(日)、
2025年3月16日(日)
来場者数:延べ92人

作品発表機会の提供

有楽町アートアーバニズム(YAU)の協力を得て、START Boxを利用するアーティストの合同作品展「START Box EXHIBITION」を開催。また、東京都が共催する「MEET YOUR ART FESTIVAL」では選ばれた6名のアーティストが作品を出展しました。



Photo: tatsuki nakata

START Box EXHIBITION

開催日:2024年9月3日(火)~8日(日)
2025年2月11日(火)~16日(日)
会場:YAU CENTER
来場者数:延べ584人

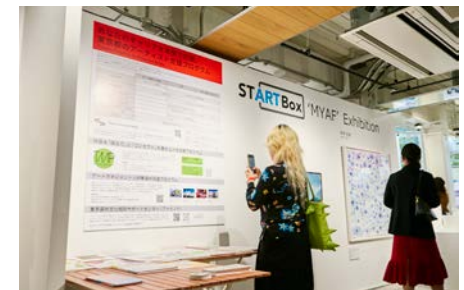


Photo: tatsuki nakata

MEET YOUR ART FESTIVAL 2024

開催日:2024年10月11日(金)~14日(月・祝)
会場:WHAT CAFE 内の特設ブース

人材育成事業では、未来を見据え、東京の芸術文化の現場を牽引する多様な人材を育成する取組を行っています。美術や映画・映像、舞台芸術といった分野のアーティストや、それらを支える専門人材や担い手の若手を対象に、各分野のスペシャリストによるレクチャーやメンタリング、プレゼンテーション、海外派遣といったプログラムを実施することで、国際的なステージで活躍できる人材を育成するとともに、ネットワーク構築の機会を提供しています。

美術・映像分野の若手アーティストを支援する「Tokyo Artist Accelerator Program (TAAP)」では、2023年度に選抜された第1期支援アーティスト10名に対し、専門家によるメンタリングで作品のコンセプトや表現力を高め、アート関係者へのプレゼンテーションを通じて学び合い、今後の飛躍の機会を提供しました。

アジアの映画監督やプロデューサーを対象とし、映画人として世界で活躍するためのノウハウの習得とネットワーク構築を目指す人材育成事業「タレンツ・トーキョー」では、参加者同士の直接的な交流と、東京という多様性を持つ国際都市の歴史や文化資源をより深く知ってもらう機会をつくるための課外プログラムとしてエクスカージョンを新設し、参加者からも好評を得ました。また、タレンツ・トーキョー修了生の映画製作や海外進出を支援する「ネクスト・マスターズ・サポート・プログラム (NMSP)」も一層充実させることができました。

海外の先進的なフェスティバルや文化施設、芸術文化関係者が集うプラットフォームへ若手アートマネジメント人材を短期派遣する「アートマネジメント人材等海外派遣プログラム」では、ヨーロッパで開催された世界有数の国際フェスティバルやショーケース、またアジアのフェスティバルへ合計10名を派遣し、最終報告会では活発な意見交換が行われました。さらに、派遣修了者も派遣の経験を活かして新しいプログラムを立ち上げるなど、人材育成プログラムとして大きな成果を上げています。

Tokyo Artist Accelerator Program (TAAP) とは…

自立した継続的な活動を目指す美術・映像分野の若手アーティストを支援するプログラムです。アーティスト自身によるプレゼンテーションに焦点をあて、作品を語る力の向上とコンセプト強化の両面からサポートしています。選考を経て採択されたアーティストには、自由度の高い制作支援金を支給するとともに、現代アートの多様なスペシャリストと8か月間にわたる継続的なメンタリングを実施。さらに国内外の現代アート関係者へ向けたプレゼンテーションの機会 (TAAP Live) を提供し、東京を起点とする若手アーティストの国際的な飛躍を支援しています。

支援アーティスト

2024年度は、2023年度に決定した第1期支援アーティストの支援を行うとともに、第2期支援アーティストの公募・選考を実施しました。

○第1期支援アーティスト (10人)
あおいうに (絵画)・天草ミオ (絵画)・伊阪柊 (映像)・白井仁美 (立体)・佐藤浩一 (映像)・高野徹 (映像)・寺田健人 (写真など)・MOYAN (絵画)・山内祥太 (映像)・李和晋 (映像)



○第2期支援アーティスト (12人)
池添俊 (映像)・折田千秋 (絵画)・久保田須智広 (立体)・窪田望 (立体)・黒田恭章 (染織)・小林颯 (映像)・近藤智美 (絵画)・齋藤英理 (映像)・司馬宙 (映像)・日原聖子 (絵画)・三野新 (写真など)・脇田あおい (絵画)

TAAP Live 2024

第1期支援アーティストの8か月間にわたるメンタリングの成果として、作品のコンセプトや制作背景をプレゼンテーションするイベントを実施しました。また、支援アーティストのプレゼンテーション内容をもとに、そのコンセプトや活動、プロセスがわかる展示をしました。

開催日: 2024年11月9日 (土)~12日 (火)
会場: TODA HALL & CONFERENCE TOKYOホールA
来場者数: 579人



タレンツ・トーキョーとは…

「ベルリン国際映画祭」の一環として開催されている人材育成プログラム「ベルリナーレ・タレンツ」と提携し、映画分野における東京からの文化の創造・発信を強化するために実施している事業です。「次世代の巨匠」になる可能性を秘めた「才能 (=Talents, タレンツ)」を育成することを目的とし、映画監督やプロデューサーを目指すアジアの若者を東京に招聘、国際的に活躍するプロフェッショナルを講師に迎え、レクチャーや企画合評会、エクスカージョンを実施しました。第一線で活動する専門家の視線に触れることで、強烈なインスパイアを受ける体験の場と、参加者それぞれのネットワークを国際的に広げる機会を提供しています。また「ネクスト・マスターズ・サポート・プログラム (NMSP)」も対象者数を拡大し、国際映画祭のマーケットなどで企画をブラッシュアップする機会を、より多くの修了生に提供しました。

2024年度参加者

○監督 (13人)
Danech SAN (カンボジア)・YAN Haohao (中国)・YANG Yanxi (中国)・François CHANG (フランス・中国)・CHAN Tze-woon (香港)・Adriano Rudiman (インドネシア)・HATAKEYAMA Kana (日本)・MURAKAMI Riko (日本)・JANG Jeehye Kay (韓国)・LAU Kok Rui (マレーシア)・Lkhagvadulam PUREV-OCHIR (モンゴル)・Alvin LEE (シンガポール)・MAI Huyền Chi (ベトナム)

○プロデューサー (4人)
Annie SONG (中国)・B.M. Anggana (インドネシア)・KOIDE Daiju (日本)・SHEN Ivy Yu-Hua (台湾)



アートマネジメント人材等海外派遣プログラムとは…

将来アーティストと社会をつなぐ役割を担う若手アートマネジメント人材を、短期で海外の芸術フェスティバルなどに派遣するプログラム。国際的な活動の第一歩となるよう、海外の芸術文化関係者とのネットワークをつくる機会を提供しています。海外の先駆的な作品や創作現場に直接に触れることで、国際的な視点に立った創作の機運醸成を図ります。将来的には、本事業を通じて東京と各派遣先との連携を深め、東京と海外セクターとのネットワーク構築・強化にもつなげていきます。また、派遣参加者の成果を発表する機会として、派遣事業報告会も実施しています。

2024年度派遣先

○ヴェネツィア・ビエンナーレ、ミラノ、ローマ

参加者：岩田智哉（キュレーター）・戸塚愛美（インディペンデント・キュレーター）・三木茜（アートマネージャー）

○インドネシア・ダンス・フェスティバル（ジャカルタ）、ドラマリーディング・フェスティバル（ジョグジャカルタ）

参加者：菊地もなみ（ディレクター、パフォーマー）・黒木裕太（制作、ダンサー、演出家）・寺田凜（制作、アートマネジメント）

○CINARS（モントリオール）

参加者：白田菜南（舞台芸術広報）・大塚健太郎（劇作家、演出家、プロデューサー）・大野創（アートマネージャー、アドミン、制作者）・笠川奈美（振付師、ステージングディレクター）

派遣事業報告会

日時：2025年2月6日（木）

会場：アーツカウンシル東京会議室

参加者：約80人



ヴェネツィア・ビエンナーレ、ミラノ、ローマ派遣



インドネシア・ダンス・フェスティバル、ドラマリーディング・フェスティバル派遣



CINARS 派遣



派遣事業報告会



芸術文化の創造・発信事業

独自性豊かなフェスティバルやイベントを都内各地で展開している芸術文化の創造・発信事業は、東京における創造活動を活性化させ、国内外へ新たな東京の芸術文化を発信することを目指しています。

2024年度は、日本の伝統文化を気軽に体験できる「神楽坂まち舞台・大江戸めぐり」や「伝承のたまてばこ～多摩伝統文化フェスティバル～」、「東京大茶会」、まちづくりの先駆的モデル創出を目的としたアートの饗宴「六本木アートナイト」、国内最大規模のストリートダンスの祭典「Shibuya StreetDance Week」、舞台芸術の祭典「東京芸術祭」など、多彩なジャンルのフェスティバルやイベントを地域団体、NPO法人、区市町村などと連携して実施し、観覧者の裾野を拡大するとともに、東京の魅力を国内外に発信しました。

また、「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー」の一環として、「東京大茶会」での手話通訳の対応や「東京芸術祭」での鑑賞サポートの提供を行い、だれもが参加しやすい環境づくりを通じて、芸術文化へのアクセシビリティ向上に取り組みました。

他にも、2025年に開催される世界陸上・デフリンピックの文化プログラム「TOKYO わっしょい」の実施に向けて、「祭り」をテーマとしたイベントの開催など、PR活動を展開しました。



神楽坂まち舞台・大江戸めぐり 2024



毘沙門天で「お座敷ライブ」

神楽坂エリア一帯を地域の文化資源として活用し、伝統芸能に馴染みのない方や若年層、外国人（観光客、在住者）にも気軽に参加してもらえる伝統芸能フェスティバルを開催。日本の伝統芸能や文化に親しむきっかけを提供しました。

開催日：2024年5月18日（土）、19日（日）
会場：神楽坂エリア（毘沙門天善國寺、赤城神社、矢来能楽堂、白銀公園、神楽坂通りエリア内路上ほか）
来場者数：34,171人

伝承のたまてばこ ～多摩伝統文化フェスティバル 2024～



立川羽三嬢子連

八王子市をはじめとする多摩地域の文化資源を活用し、まちなかでの演奏会や屋外ステージでの本格的な公演などのプログラムを通じて、多彩な伝統文化・芸能の魅力を発信するフェスティバルを開催しました。

開催日：2024年9月28日（土）、29日（日）
会場：JR八王子駅北口エリア（西放射線ユーロード、中町公園、横山町公園、まち・なかギャラリーホール、桑都テラス、網代園・南側カフス蔵、学園都市センター（28日のみ）ほか）
来場者数：29,870人





東京大茶会 2024



浜離宮恩賜庭園会場 英語で楽しむ野点

お茶の文化を都民や東京を訪れる観光客に普及・紹介するため、様々な流派による茶道プログラムのほか、日本の伝統文化を楽しめる体験プログラムやパフォーマンスを実施するなど、誰でも気軽に参加できる大規模な茶会を、都内2か所で開催しました。

- ・江戸東京たてももの園：2024年10月19日(土)、20日(日)
来場者数：6,622人
- ・浜離宮恩賜庭園：2024年10月26日(土)、27日(日)
来場者数：8,722人

六本木アートナイト2024



©六本木アートナイト実行委員会 アトリエシス《エフェメラルコレクション》

様々な文化施設や商業施設が集積する六本木のまちを舞台に、大都市・東京におけるまちづくりの先駆的なモデルを創出することを目的として、現代アート、パフォーマンス、映像など多様な作品をまちなかに点在させ、アートとまちを一体化するアートの祭典を実施しました。

- 開催日：2024年9月27日(金)～29日(日)
- 会場：六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース
- 来場者数：約68万人



Shibuya StreetDance Week 2024



SSDW CONTEST

幅広い客層に支持される新しい芸術文化として、ストリートダンスの魅力や本質的な価値をストリートダンサーの聖地・渋谷から国内外へ発信し、活力のあふれるまちづくりを目的に、国内最大規模のストリートダンスの祭典を開催しました。

- 開催日：2024年11月23日(土・祝)
- 会場：代々木公園
- 来場者数：23,700人

東京芸術祭 2024



円盤に乗る派『仮想的な失調』 撮影：濱田晋

東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指し、東京・池袋エリアを中心に開催。2024年度は「トランジット・ナウ～寄り道しよう、舞台の世界へ～」をテーマに、現代演劇、交流の場の創出、託児型ワークショップ、野外パフォーマンスなどを実施しました。

- 開催日：2024年9月15日(日)～29日(日)
- 会場：東京芸術劇場、GLOBAL RING THEATRE(池袋西口公園野外劇場)
- 来場者数：39,066人
- オンラインリーチ数：17,647リーチ*

*オンラインリーチ数はオンライン視聴者と映像再生数を積算した数値

参加・体験機会の創出事業

主に次世代の担い手となる子供や青少年に向けて、豊かな感性を育むことを目指し、プロフェッショナルのもとで様々な創造・体験プログラムを実施しています。また、伝統文化・芸能を次世代に継承することを目指し、伝統文化・芸能の体験・鑑賞プログラムも実施しています。

2024年度は、子供や現役世代が東京に伝わる伝統文化・芸能を気軽に体験できるプログラムを、公益法人や実演家団体と連携して実施しました。また、NPO法人、民間企業、芸術系大学などと連携し、子供たちが現代アーティスト（振付家・ダンサー・音楽家など）やファッションデザイナー、大学教授など、各分野で活躍するプロフェッショナルから指導を受けるプログラムを実施。舞台制作やファッションショーの開催、アート作品の制作などを通じて、創造力やアートへの関心を高めました。いずれも、区部・多摩・島しょを含む広い地域で、学校や文化施設などと協力して体験機会を創出しました。

なかでも、2024年度に新たな取組として立ち上げた「ネクスト・クリエイション・プログラム」では、洋服のデザインやスタイリング、演出、モデルなどの役割に分かれてファッションショーをつくりあげる「こどもファッションプロジェクト」と、芸術系大学のキャンパスで美術や音楽の作品づくりや生演奏に触れる体験ができる「キッズユースオープンキャンパス」の2つのプログラムを実施しました。子供たちが自らの興味・関心のある芸術文化について、より深く、より高いレベルで学ぶことができるプログラムとして、これまでとは異なる創作体験を提供することができました。



キッズ伝統芸能体験



日本舞踊 撮影：武藤奈緒美

能楽、長唄、三曲、日本舞踊の4ジャンルにわたる伝統芸能を、プロの実演家が都内の能楽堂や文化施設で子供たちに継続的に指導し、その成果を本格的な舞台で発表。「お稽古」を通して、子供たちが伝統芸能の世界を学び、日本人としての意識と感性を涵養することを目的としたプログラムを実施しました。

実施期間：2024年9月～2025年3月
参加者数：305人
発表会観覧者数：1,517人

大人のための伝統文化・芸能体験事業



能楽（体験） photo：KOTA SUGAWARA

伝統文化や芸能に日頃触れる機会の少ない18歳以上を対象に、1日で伝統文化・芸能についてのトーク・鑑賞・体験を通じて、深く味わうことができるプログラムを実施し、その魅力に触れてもらう機会を創出しました。

実施期間：2024年9月～2025年1月のうち4日間
実施場所：都内4か所
参加者数：524人



子供のための伝統文化・芸能体験事業



和楽器いろいろ (尺八)

子供たちが日本の伝統文化や芸能に触れ、日本文化の価値に対する正しい理解を深めるとともに、多様な文化に対する幅広い知識を育むことを目的として、プロの実演家や職人を講師として学校に派遣し、体験・鑑賞プログラムを実施しました。

実施期間：2024年5月～2025年2月
 参加者数：5,557人
 実施校数：60校

パフォーマンスキッズ・トーキョー



「まいにちのカケラ、おどっておしえて？」 撮影：松本和幸

子供たちの創造性やコミュニケーション能力の向上を目指して、ダンスや演劇、音楽などの分野で活動するプロの現代アーティストを都内の学校やホール、児童養護施設など計29か所に派遣。約10日間のワークショップを通じて、子供たちが主役のオリジナル舞台作品をつくりあげ、最後に発表公演を行うプログラムを実施しました。

実施期間：2024年4月～2025年2月
 参加者数：1,120人
 観覧者数：8,917人



ネクスト・クリエイション・プログラム こどもファッションプロジェクト



「ファッションアカデミー」

ファッションや洋服を題材に、各分野の第一線で活躍するプロの指導のもと、子供たちがデザインやスタイリング、演出、モデルなどの役割に分かれて、ファッションショーをつくりあげるプログラムを実施しました。

実施期間：2024年7月～12月
 ファッションショー：2024年12月1日(日)
 参加者数：93人
 ファッションショー来場者数：497人

ネクスト・クリエイション・プログラム キッズユースオープンキャンパス



「ブラカード!ブラカード!〜絵画を着よう 街に出よう〜」 撮影：MINGLE Design Office

芸術系大学の教授などが講師となり、子供たちがつくる・表現する・思考する楽しさを実感できる機会を提供するプログラム。2024年度は東京藝術大学と多摩美術大学で実施しました。

開催日：2024年8月8日(木) (東京藝術大学)
 2024年9月29日(日) (多摩美術大学)
 参加者数：445人(同伴者含む751人) (東京藝術大学)
 161人 (多摩美術大学)

地域連携の促進

地域連携の促進のため、NPOや区市町村など多様な主体と連携し、文化創造拠点の形成、社会問題への対応、身近な場所で芸術文化活動に参加できる機会の拡大に取り組んでいます。また、担い手となる人材育成などの環境整備事業も行っています。これらの一環として、地域に文化拠点を形成し地域課題に対応する「東京アートポイント計画」と、区市町村と協働して地域のニーズや政策課題に応じた文化事業を立案・実施する「東京都・区市町村連携事業」を展開しています。

「東京アートポイント計画」では、共催団体との継続的な連携を通じて社会課題に回答し、コミュニティ形成に資する6事業を実施。江東区で展開する「カロクリサイクル」では、独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）と連携し、拠点形成を進めています。

また、環境整備事業である第15回「Artpoint Meeting」は港区と港区スポーツふれあい文化健康財団との共催で開催。「Tokyo Art Research Lab (TARL)」では、担い手の学び合いの場づくり、ネットワーク形成、情報発信に取り組みました。

「東京都・区市町村連携事業」では、「東京アートポイント計画」で培ったノウハウを活かし、文化政策と事業をつなぐ役割を担いました。事業スキームを整理し、府中市・中野区・西東京市の3自治体と事業を実施しました。

東京アートポイント計画

東京アートポイント計画とは…

社会に対して新たな価値観や創造的な活動を生み出すための様々な「アートポイント」をつくる事業です。教育機関や企業などの多様な主体と連携しながら、NPO*を軸に、区市町村、東京都、アーツカウンシル東京が共催で事業を実施しています。当たり前を問い直す、課題を見つける、異なる分野をつなぐといったアートの特性を活用し、実験的なアートプロジェクトを通して、個人が豊かに生きていくための関係や仕組みづくり、コミュニティ育成に取り組んでいます。また、アートプロジェクトを支える環境を整備するために、絶えず研究・開発を行っています。

* NPO法人のほか、一般社団法人、社会福祉法人など非営利型の組織も含む

拠点形成事業

ACKT (アクト/アートセンタークニタチ)

国立市および多摩地域にある潜在的な社会課題に対し、アートプロジェクトを通して横断的に協働する場所や交流の機会を創出。人々の生活の質向上を目指し、市内外の文化活動や様々な分野の担い手との連携を軸に事業を展開しました。



ただの店「Re:Birth Players」

実施場所：国立市ほか 共催：一般社団法人ACKT、国立市、公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団 参加者数：4,971人

多摩の未来の地勢図 Cleaving Art Meeting

多摩地域の文化的・歴史的特性を踏まえ、その「地勢」を探ることを通して、一人ひとりが自らの暮らしを新たな視点で見つめ直すプロジェクトです。ケアや教育などに関する様々なプログラムを地域で展開しました。



物語をめぐりながら「ケア」と「私」について考える

実施場所：多摩エリア 共催：特定非営利活動法人アートフル・アクション 参加者数：1,547人

カロクリサイクル

各地に蓄積されてきた過去の災禍の記録=禍録（カロク）を読み込み、現在に応用するためのプロジェクトです。災間期をともに生きるためのネットワークづくりを目指し、ワークショップや展示を通じて表現を行う場をつくりました。



記録から表現をつくる2024ワークショップ

実施場所：江東区ほか 共催：一般社団法人NOOK 参加者数：3,013人

KINOミーティング

海外に（も）ルーツを持つ人々とともに、都内の様々なエリアで映像制作を中心としたワークショップを行うプロジェクトです。自身とは異なるルーツを持つ人々との対話を通して、互いの視点を交換し、協働しながら映画作品の制作に取り組みました。



映画プロジェクト2024

実施場所：都内各所 共催：一般社団法人パンタナル 参加者数：193人

めとてラポ

視覚言語（日本の手話）で話そうろう者・難聴者・CODA（ろう者の親を持つ聴者）が主体となり、異なる身体性や感覚世界を持つ人々とともに、自らの感覚や言語を起点にしてコミュニケーションを創発する場をつくるプロジェクトを実施しました。



ホームビデオ鑑賞会 撮影：中谷美帆

実施場所：都内各所 共催：一般社団法人ooo 参加者数：380人

アートアクセスあだち 音まち千住の縁 「Memorial Rebirth 千住 2024」

現代美術作家・大巻伸嗣による、無数のシャボン玉で見慣れたまちを光の風景に変貌させるアートパフォーマンス。まちなかアートプロジェクト「アートアクセスあだち 音まち千住の縁」の一環として、12月に都立舎人公園で開催しました。



撮影：富田了平

実施場所：足立区各所 共催：特定非営利活動法人音まち計画、東京藝術大学音楽学部・大学院国際芸術創造研究科、足立区 参加者数：9,956人

環境整備事業

Artpoint Meeting

「まち」をフィールドに、人々の営みに寄り添い、アートを介して問いを提示するアートプロジェクトを紐解き、最新のテーマを追求するトークイベントです。2024年度は活動の広げ方に関するヒントを模索するべく、関心を持つ人々たちをつなぐ上で欠かせないプロジェクト内の「余白」のつくり方や伝え方、残し方をテーマに開催しました。



Artpoint Meeting #15 × 港区文化芸術ネットワーク会議 「プロジェクトを広げる、“かかわりしろ”のつくりかた」 撮影：高岡弘

Artpoint Meeting #15 × 港区文化芸術ネットワーク会議 プロジェクトを広げる、“かかわりしろ”のつくりかた

開催日：2024年12月14日（土）
会場：港区立男女平等参画センターリーブラ リーブラホール
来場者数：61人

Artpoint Meeting #16 オンラインをつかう、“伝えかた”と“残しかた”

開催日：2025年1月25日（土）
会場：オンライン（YouTubeでのライブ配信）
視聴者数：109人（リアルタイムでの視聴者数）

Tokyo Art Research Lab (TARL) とは…

アートプロジェクトを実践する人々にひらかれ、ともに作りあげる学びのプログラムです。アートプロジェクトの現場の課題に応じたプログラムやコンテンツの開発、ゲストや講師とともにワークを行うゼミや講座、プラットフォームとしてのウェブサイト運営などを通じて、社会におけるアートプロジェクトの可能性を広げることを目指しています。



新たな航路を切り開く「自分のアートプロジェクトをつくる」
撮影：齋藤彰英

新たな航路を切り開く

2011年以降に生まれたアートプロジェクトと、それらととりまく社会状況を振り返りながら、これからの時代に応答するアートプロジェクトのかたちを考えるプログラムです。芹沢高志（P3 art and environment 統括ディレクター）をナビゲーターに迎えて、自らの問いに向き合いながらアートプロジェクトをつくるための演習や、年表制作のプログラムを実施しました。

参加者数：13人

Artpoint Radio

文化やアートの領域で活動する実践者との対話を通して、日々変化する東京の少し先の未来についてともに考えるインタビューシリーズ。文化拠点への取材レポートやテーマごとの長編ラジオを、TARL ウェブサイト、YouTube チャンネル、ポッドキャストチャンネルにて公開しました。

番組総再生回数：1,207回

コミュニティ・アーカイブ・ミーティング——能登・仙台・東京

市民の手によって地域の記録を残し活用する「コミュニティ・アーカイブ」に関する知見を共有するプログラム。東日本大震災や能登半島地震での取組を事例に、各地の災害にかかわり続けてきたメンバーとのディスカッションを行いました。せんだいメディアテーク、東京都、アーツカウンシル東京の三者が共催し、実施しました。

参加者数：45人

ジムジム会

東京アートポイント計画に参加する団体が集まり、プロジェクト運営に必要なテーマを学び合う勉強会。2024年度は「パートナー」をテーマに、文化事業が地域に根差すための仕組みと継続性についてディスカッションし、現場を動かすスキルの獲得や新たなネットワークの形成に取り組みました。

参加者数：62人



ジムジム会 第3回：昭島市立光華小学校 撮影：小野悠介

東京を“再読”する：(Re) reading Tokyo

普段何気なく経験しているものごとを見つめ、自身との関係性をあらためて問い、読み返す実践のなかで、「探求者」としての文化の担い手を育むことを目指すプロジェクト。リサーチやディスカッションを行い、そのプロセスを展覧会としてひらきました。

参加者数：110人

わたしたちの“ウェブアクセシビリティ”を考える

ウェブディレクターの萩原俊矢をモデレーターに迎え、ウェブサイト制作における様々な環境や文化を背景にした「ユーザー体験の豊かさ」や「心地よさ」を探るプロジェクトを実施。全5回のレポートをTARLのウェブサイトで公開しました。

東京都・区市町村連携事業とは…

都内の区市町村と連携し、地域のニーズや自治体の政策課題に応じた文化事業を立案・実施しています。NPOや文化財団など、様々な文化の担い手と連携し、まちなかや文化施設などで文化事業を行うことで、より多くの方が地域のなかで芸術文化に触れる機会をつくります。



東京都・府中市芸術文化連携事業「共生社会を聞いて、みる」 撮影：高橋真美



東京都・中野区芸術文化連携事業
「みんなでつくろう！音楽のせかい～ナカノバ De セッション～」 撮影：Mino Inoue

東京都・府中市芸術文化連携事業「共生社会を聞いて、みる」

府中市の地域共生社会実現に向けて様々な取組を進めていくために、共生社会にまつわる活動に携わるゲストを迎え、それぞれの取組について話を伺う番組収録および動画制作を行いました。動画は府中市のYouTube チャンネルで公開しています。

番組再生回数：1,224回（動画Vol.0～Vol.3までの再生回数）

東京都・中野区芸術文化連携事業

「みんなでつくろう！音楽のせかい～ナカノバ De セッション～」

年齢や障害の有無にかかわらず、誰でも気軽に参加できる音楽イベントを開催。パーカッションなどの楽器演奏や歌を通して、音楽の楽しさを体験しながら、ワークショップで創作した音楽をイベントスペース「ナカノバ」で発表しました。

開催日：2025年2月15日（土）

会場：中野区役所1階

参加者数：60人

東京都・西東京市芸術文化連携事業

「みんなで楽器チャレンジ2025&みんなで手づくりコンサートin 西東京2025」

子供を対象とした音楽ワークショップとコンサートを開催。第1部では簡単な打楽器に触れ、演奏を楽しむワークショップを実施し、第2部ではプロの演奏者による演奏とワークショップ参加者による成果発表を実施しました。

開催日：2025年3月26日（水）

会場：タクトホームこもれびGRAFAREホール

ワークショップ参加者数：11人

コンサート入場者数：45人

クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー

「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー」は、東京都との共催により、乳幼児から高齢者まで、障害の有無や言語・文化の違いを超えて、多様な人々が文化事業に参加し、ともに創造していくための環境整備や調査・検証・開発に取り組むプロジェクトです。

環境整備においては、文化施設や文化事業における情報保障ツールやアクセシビリティ対応の質を高める取組を推進しました。

調査・検証・開発においては、「パートナープログラム」として4つのプログラムを実施しました。

また、国内外への発信・ネットワークの醸成においては、芸術文化による共生社会の実現に向けた取組を国内外に共有するため、「だれもが文化でつながる国際会議2024」を開催しました。本会議では国際手話通訳を導入し、国内外の関係者約70名が登場・出展し、延べ7,000人の来場がありました。

そして、都立文化施設のアクセシビリティ向上においては、公益財団法人東京都歴史文化財団が運営する都立文化施設に社会共生担当が配置され、各施設の担当者とアートカウンシル東京の連携体制のもと、都立文化施設および文化事業のアクセシビリティ向上を推進しました。

福祉施設や社会的支援を行う団体がアーティストとともにアートプロジェクトを企画・実践する「TURN LAND プログラム」では、10か所を拠点として多様な活動と交流を創出し、地域における共生と創造の場づくりを進めました。



だれもが文化でつながる国際会議2024

環境整備

文化施設や文化事業の情報保障ツールやサポートの先進性と質を高める取組を展開するとともに、アクセシビリティに関わる調査や発信に取り組みました。

アクセシビリティ向上に関わる調査・検証・開発—パートナープログラムの実施

アクセシビリティ向上に関わるモデル開発として、以下のプログラムを実施しました。

- (1) 医療機関と連携した文化施設における認知症当事者と家族の受け入れモデルの開発 パートナー | 東京都美術館
- (2) 鑑賞体験を拡張させる鑑賞サポートのデザイン パートナー | 東京文化会館
- (3) 多文化共生に向けたプログラムと担い手育成におけるモデル開発 パートナー | 東京芸術劇場
- (4) ろう者によるろうガイド養成プログラムのモデル開発 パートナー | Re; Signing Project

国内外への発信・ネットワークの醸成—国際会議の実施

芸術文化による共生社会の実現に向けた取組を共有するとともに、交流と新たな連携を促進するために、「だれもが文化でつながる会議」を開催しています。2024年度は「文化と居場所」をテーマに国際会議を開催しました。



だれもが文化でつながる国際会議2024 文化と居場所 アートが開く新たな未来

開催日：2024年10月29日（火）～11月3日（日・祝）
会場：東京国際フォーラム ホールB5、会議室G502・G510、ロビーギャラリー
来場者数：延べ7,000人

都立文化施設のアクセシビリティ向上とは…

多様な人々が芸術文化にアクセスしやすい環境の構築を目指し、文化施設や文化事業に来館・参加するまでの情報提供やサービスの向上、公演・展覧会・プログラムの鑑賞・参加体験を豊かにするための取組を推進しました。また、芸術文化分野の手話通訳者を養成するための研修プログラムなども実施しました。

都立文化施設の
アクセシビリティ向上

TURN LANDプログラムとは…

福祉施設や社会的支援を行う団体などが、アーティストと協働し、アートプロジェクトの手法を活かして様々なプログラムを展開する事業です。福祉施設や団体の活動の場に、多様な価値観を認め合う文化施設としての機能を醸成します。活動を通して、文化の領域を超えた社会課題に向き合う多様なアプローチを提示するとともに、新しい感覚や感性にアクセスできるきっかけをつくり、「人と違う」ことに価値を見出ししていきます。2024年度はアートプロジェクトを実践するTURN LANDを6プログラム、TURN LANDに取り込む準備段階としてアートプログラムの実施を経験するプレLANDを4プログラム実施しました。



TURN LAND バナナと太陽のまわりを歩む
撮影：梅田 彩華、TURN LAND プログラム関係者



プレLAND 墨かけ 撮影：梅田 彩華、TURN LAND プログラム関係者

TURN LAND

- ・池上わがまま準備室 参画施設・団体 | 気まぐれ八百屋だんだん、大田区立池上福祉園、特定非営利活動法人ステップ夢
- ・ともに在る場所 参画施設・団体 | クラフト工房La Mano (ラマノ)
- ・「編み物」と「曲づくり」 参画施設・団体 | 高齢者在宅サービスセンター西荻ふれあいの家
- ・バナナと太陽のまわりを歩む 参画施設・団体 | 渋谷区障害者福祉センター はあとびあ原宿
- ・人と人にあるもの 参画施設・団体 | 豊島区立心身障害者福祉ホームさくらんぼ
- ・オーロラ・フロアプロジェクト 参画施設・団体 | 放課後等デイサービス フェイト

プレLAND

- ・きむらとしょうじんの「野点(のだて)」 参画施設・団体 | 浅草みらいど
- ・墨かけ 参画施設・団体 | グループホーム東京東浅草の家
- ・音楽つくりやさん 参画施設・団体 | 翔和学園
- ・はなまる社交界 参画施設・団体 | はなまるホーム浅草北

TURN LAND ミーティング

TURN LAND プログラムに参加している福祉施設の職員やアーティスト、コーディネーターなどが集い、互いの活動について報告し合う場です。2024年度は3回実施しました（参加者数：第1～3回 延べ79人）。

第1回

開催日：2024年8月6日(火)

会場：アーツカウンシル東京

第2回

開催日：2024年10月16日(水)

会場：SCC 千駄ヶ谷コミュニティ
センター地下1階 サークルホール

第3回

開催日：2025年1月22日(水)

会場：アーツカウンシル東京

デジタルシフトへの対応

アートカウンシル東京では、芸術文化が持つ、人々に感動や喜びを提供し創造性を養うという効果をより促進することを目指し、最先端技術を積極的に活用することで新たな鑑賞・参加機会を提供しています。また、デジタルテクノロジーとアートの融合による新たな芸術文化を生み出す場を整備し、都民が鑑賞・参加するだけでなく、自ら創造・発信するなど、主体的に楽しめる機会も充実させています。

都立文化施設のデジタルシフトにより「誰もが、いつでも、どこでも芸術文化を楽しめる環境」の実現を目指し、都立文化施設の収蔵品や展覧会・公演などをデジタル化して記録・保存し、多様な鑑賞体験を可能にする「TOKYO スマート・カルチャー・プロジェクト」を実施しています。さらに、アートとデジタルテクノロジーを通じて人々の創造性を社会に発揮し、東京からイノベーションを生み出す原動力となることを目指す「シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]」を運営しています。

TOKYO スマート・カルチャー・プロジェクトとは…

8つの都立文化施設（東京都江戸東京博物館、江戸東京たてもの園、東京都美術館、東京都庭園美術館、東京都写真美術館、東京都現代美術館、東京文化会館、東京芸術劇場）とともに、文化資源のオンライン公開、最先端技術による新しい鑑賞体験の創出と、それに伴う各施設の情報環境整備を一体的に推進しています。

デジタルアーカイブの充実

収蔵資料などをオンライン上で公開するためのシステム構築と資料情報の拡充を図ります。また、収蔵資料のマイグレーションおよび貴重資料のデジタル化を実施しています。



Tokyo Museum Collection (ToMuCo)
— 東京都立博物館・美術館収蔵品検索

6つの都立ミュージアム（東京都江戸東京博物館、江戸東京たてもの園、東京都美術館、東京都庭園美術館、東京都写真美術館、東京都現代美術館）が収蔵する資料・作品を横断的に検索できるデータベースです。2025年3月までに収蔵品約25万点の目録データを公開しています。



オンライン展覧会「Meta Bath ～デジタルで見る東京型銭湯～」

江戸東京たてもの園が収蔵する「子宝湯」を通して、東京の銭湯文化の歴史と魅力を最新のデジタル技術で深く体験できるオンライン展覧会を開催しました。国際的なウェブデザインアワード「Awwards」にて、Honorable Mentionsを受賞しました。

ICT活用新規プログラムの開発

都立文化施設の情報環境整備とデジタルアーカイブの構築を踏まえ、情報通信技術（ICT）を積極的に活用した新規プログラムの企画開発を行いました。

東京都江戸東京博物館：スマートフォンアプリ「ハイパー江戸博 日本橋繁昌記 江戸のお金編」
スマートフォンアプリ「ハイパー江戸博」は、東京都江戸東京博物館が大規模改修工事のため休館するにあたり、博物館の収蔵品や江戸東京の歴史を楽しく学べるコンテンツとして、2022年から配信を開始したスマートフォン向けアプリシリーズです。これまでに「江戸両国編」「明治銀座編」が配信され、累計約21万ダウンロード（2025年3月時点）を達成しています。

東京都江戸東京博物館：体験型コンテンツ「エクストリーム江戸博」

スマートフォンアプリ「ハイパー江戸博」の世界をリアルに体験できるゲームエンジンとMR/ジェネラティブ映像による2つの体験型コンテンツ「エクストリーム江戸博 明治銀座の時間旅行」を東京都庁第一本庁舎、「エクストリーム江戸博 走る江戸！ 駆ける両国！」を江戸東京たてもの園および東京都美術館にて公開しました。

東京文化会館：音楽鑑賞サポートプログラム「音楽をみる、映像をきく、オンラインコンサート」

音楽鑑賞サポートプログラム「音楽をみる、映像をきく、オンラインコンサート」は、音が聞こえないろう者や聞こえにくい難聴者も、自宅で音楽を視覚的に体感できるライブ配信コンサートです。テクノロジーとクリエイティブを融合し、障害や世代などを超えて誰もが音楽を楽しむことができるコンサートを開催しました。

江戸東京たてもの園：デジタルアーカイブプロジェクト「デジ×たて図鑑」

デジタルアーカイブプロジェクト「デジ×たて図鑑」は、園内に復元された歴史的建造物を3DモデルやARで公開するウェブコンテンツを開発したものです。新たな鑑賞体験や文化財継承への理解を深めることを目的に、「測ってみようたてもの園～3Dスキャンワークショップ～」を開催し、参加者が計測した3Dモデルを公開しました。



スマートフォンアプリ「ハイパー江戸博 日本橋繁昌記 江戸のお金編」



体験型コンテンツ「エクストリーム江戸博」



音楽鑑賞サポートプログラム「音楽をみる、映像をきく、オンラインコンサート」

シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] とは…

アートとデジタルテクノロジーを通じて、人々の創造性を社会に発揮するための活動拠点です。ラボ・スタジオなどのスペースを備え、様々なプログラムを通じて、東京からイノベーションを生み出す原動力となることを目指しています。「Co-Creative Transformation of Tokyo クリエイティブ×テクノロジーで東京をより良い都市（まち）に変える」を掲げ、5つのコアプログラムを通して人々の創造性を触発するとともに、国内外の分野を超えた多様なパートナーと連携し事業を展開していきます。2024年度は約2万人の参加を得ることができました。

コアプログラム

アート・インキュベーション

CCBTのパートナーとして活動するアーティスト・フェローを企画公募により選考。採択されたフェローに創作機会を提供し、その創作活動に市民が参加する機会として、ワークショップやトークイベントなどを開催することで、東京をより良い都市（まち）に変える表現・探求・アクションの創造を目指しています。

○2024年度アーティスト・フェロー

市原えつこ（アーティスト）・柴田祐輔（アーティスト）+Token Art Center（アートセンター）
HUMAN AWESOME ERROR（アートコレクティブ）・布施琳太郎（アーティスト）
MVMNT（スペキュラティブ・デザインユニット）

キャンプ

多様な人々が協働し、新たな構想や開発に取り組む集中ワークショップ。思考法を身につける講義、スキルセットをつくるハンズオン、グループワークによる協働制作を通じて、社会課題をクリエイティブに変容させ、これからの東京に必要なアクションを生み出します。2024年度は2回の未来提案型キャンプを実施し、成果を展覧会や報告会を通じて一般公開しました。

ワークショップ

デジタル・クリエイティブに出会う場として、各分野の専門家を講師に迎えたワークショップやCCBTの設備「テックラボ」の機材を使ったものづくりやプログラミングなどの講座を開催。デジタルスキルを学びながら、市民の未来のリテラシーやフルエンシーを高めます。2024年度は複数のテーマを設け、全28回開催しました。

ショーケース

ラボ機能を有するCCBTの特徴を活かし、メディアアートなどの作品と、その創作プロセスや技術的背景を紹介する展覧会です。アート&テクノロジーの発想法とテクノロジーによるものづくりの創意工夫を体験できる機会を創出し、インスピレーションを提供します。2024年度は2回のショーケースを開催しました。

ミートアップ

アート、テクノロジー、デザインなど多様なトピックから「シビック・クリエイティブ」や「アート&テクノロジー」について知り、ともに思考するトークやレクチャーを実施。世界中からクリエイターや市民、企業が集まり、アイデアを出し合い、コミュニティ形成を図ります。2024年度はキャンプやショーケースなどと連動した企画を含め、42回実施しました。

CCBTx（シーシーピーティー・エックス）

CCBTのミッション「クリエイティブ×テクノロジーで東京をより良い都市（まち）に変える」のもと、「発見」「共創」「開発」「連携」を体現することを目的としたプログラムです。国内外の分野を超えた多様なパートナーと連携し、創造的な社会モデルを提示する取組を進めました。2024年度は渋谷区や注目度の高いアートフェスティバルとの連携事業を実施したほか、「アルスエレクトロニカ」といった海外機関とも連携事業を行いました。



ART FOR TRANSFORMATION アートと未来。変容と創造。



ネットワークの形成

アーツカウンシル東京では、芸術文化団体や文化施設・機関などのネットワークを構築し、様々な共同プログラムの開発や国際都市東京の芸術活動の発信力向上のきっかけづくりを行っています。海外の芸術文化団体や文化施設とのネットワーク構築の機会として「アーツカウンシル・フォーラム」を開催しているほか、「区市町村等職員向け文化行政講座」では、文化事業に関する講座を通じて、区市町村とのネットワークを構築する場を提供しています。

2024年度において、「アーツカウンシル・フォーラム」では、アムステルダム、モントリオール、ソウルからプレゼンターを招聘し、国際的な視点に立ったテーマ設定でのディスカッションを行い、参加者に有意義な機会を提供しました。また、今回のフォーラムではアムステルダムの副市長にもご協力いただき、今後の継続的な関係づくりに寄与することができました。

「区市町村等職員向け文化行政講座」では、「区市町村連携事業」とも連動し、実践に即したテーマを設定しました。区市町村職員や東京都歴史文化財団の職員から事例紹介を行い、具体的な事例や知見を共有するとともに、グループワークを通じてネットワークの形成に寄与しました。

また、アーツカウンシル東京の主催事業だけでなく、全国の地域アーツカウンシルのネットワーク「アーツカウンシル・ネットワーク」をはじめ、国内外の文化施設や教育機関、民間企業などとも連携し、ネットワークの構築を図っています。

○アーツカウンシル・フォーラム

芸術文化分野において今日のかつ重要なテーマを取り上げるフォーラムを開催。2024年度は海外の専門家を招き、グローバルなアートシーンにおけるアーティストや芸術文化機関の置かれている状況、国際的なネットワーク構築の重要性、文化政策の役割などについて深く掘り下げました。

テーマ：芸術文化と都市の力：国際展開の新たな機会と挑戦

Connecting Cultures, Shaping Cities: Challenges, Opportunities, and Strategies

開催日：2025年2月20日（木）

会場：アーツカウンシル東京会議室

参加者数：95人



○登壇者（順不同・敬称略、肩書きは開催時のもの）
アラフ・アフマダリ（アムステルダム市芸術文化局ディレクター）
チェ・ソッキュ（ソウル舞台芸術祭（SPAF）芸術監督）
ジル・ドレ（CINARS エグゼクティブ・ディレクター）

○モデレーター
塚口麻里子（舞台芸術制作者オープンネットワーク（ON-PAM）
理事長兼事務局長）

○区市町村等職員向け文化行政講座

文化事業に関わる区市町村などの職員を対象に、文化行政の基礎知識や東京都歴史文化財団が持つノウハウなどを共有し、地域の課題解決につながることを目的とした講座です。基礎編として1講座、実践編として2講座実施しました。

第1回（基礎編）

テーマ：自治体の文化行政に必要な基礎知識やノウハウ

講師：片山泰輔（青山学院大学総合文化政策学部総合文化政策
学科 教授）

開催日：2024年6月21日（金）

会場：都庁第二本庁舎二庁ホール

参加者数：134人*

第2回（実践編）

テーマ：文化芸術推進基本計画の策定

登壇者：佐々木秀彦（アーツカウンシル東京 企画部企画課長）
港区、西東京市、調布市各職員

開催日：2024年10月17日（木）

会場：新宿NSビル NSスカイカンファレンス ルーム5・6

参加者数：89人*

第3回（実践編）

テーマ：東京都歴史文化財団による区市町村との連携事業

登壇者：東京文化会館、東京芸術劇場、アーツカウンシル
東京各職員

開催日：2025年2月13日（木）

会場：新宿NSビル NSスカイカンファレンス ホールB

参加者数：73人*

*参加者数は、会場参加・オンライン参加含む

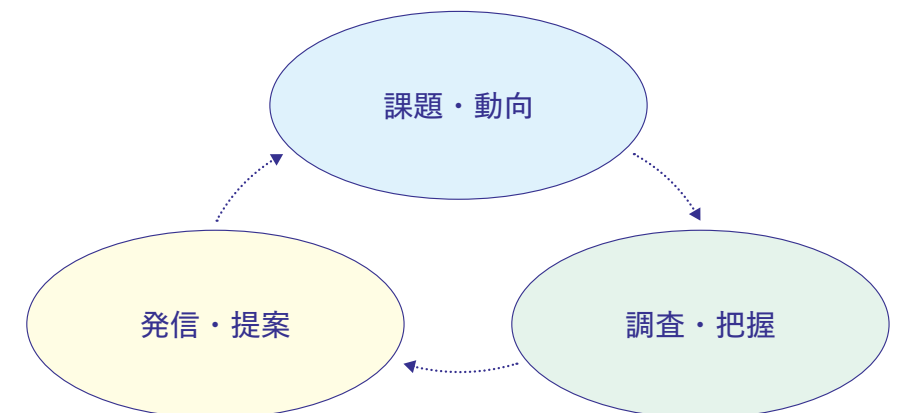


第3回（実践編） 撮影：栗原諭

調査分析

アーツカウンシル東京では、2025年度からの本格的な調査分析の開始に向け、2024年度は準備段階として、多摩地域の文化資源に関するプレ調査を実施しました。地域における文化施設や芸術活動、歴史的資産などの分布や特徴を整理し、文化資源の現状と可能性を把握しました。また、自治体、団体、企業などを対象に調査報告会を開催し、芸術文化がまちづくりに果たす役割や今後の文化資源の活用に向けた課題・視点を共有しました。

これらの成果を踏まえ、2025年度にはリサーチを所管する部署を立ち上げ、体系的な調査を実施することで、都や財団の芸術文化施策や方針づくりにつなげていきます。



アーツカウンシル東京の設立は、東京都の文化振興のための施策を総合的かつ効果的に推進するための政策提言を行う知事の附属機関「東京芸術文化評議会」での議論を経て、2012（平成24）年に公益財団法人東京都歴史文化財団内に設置されました。

2015（平成27）年に体制・機能強化を図るため、芸術文化団体やアートNPOなどと協力して事業展開を行う「東京文化発信プロジェクト室」と組織統合し、事業を再編。2022（令和4）年には、アーツカウンシル東京と「東京都歴史文化財団事務局」を財団本部として一体化し、企画戦略機能をアーツカウンシル東京に位置付けました。

指定管理者として管理運営を行っている都立美術館・博物館、劇場、ホールなどと連動して、東京都の芸術文化政策実施の一翼を担い、東京の魅力を高める多様な事業を展開しています。

- 2006（平成18）年 12月 東京都において、文化振興のための施策を総合的かつ効果的に推進するための政策提言を行う知事の附属機関として「東京芸術文化評議会」を設置
- 2008（平成20）年 4月1日 東京からの文化の創造発信を強化する取組として、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体やアートNPOなどと協力して実施する「東京文化発信プロジェクト」を開始／世界の主要都市と競い合える芸術文化の創造発信を目指す「フェスティバル事業」と芸術文化を通じた子供たちの育成を図る「キッズ事業」の2事業を展開
- 2009（平成21）年 4月1日 東京における多様な地域の文化拠点の形成を目指す「東京アートポイント計画」開始
- 2011（平成23）年 4月1日 「世界的な文化創造都市・東京」を国内外にアピールするとともに、国内外の関係者が東京に集う事業を展開しネットワークを強化する「ネットワーキング事業」開始
- 2012（平成24）年 4月1日 世界的な文化都市東京の実現を目指し、東京芸術文化評議会からの提言も踏まえ「アーツカウンシル東京準備機構」を設置
- 2012（平成24）年 11月1日 「アーツカウンシル東京」を設置
助成を通して芸術文化活動を支援し、芸術創造環境を整える「支援事業」を柱に、人材育成事業や観光・地域活性化と連動した事業など先駆的な事業を実施する「パイロット事業」と、様々な調査研究や
- 2015（平成27）年 4月1日 東京の芸術文化施策の中核的役割を担う組織としての体制と機能の強化を図るべく、「東京文化発信プロジェクト室」と「アーツカウンシル東京」が事業を再編し、組織統合
- 2016（平成28）年 秋～ 2020年に向けた東京文化プログラム事業を本格的に開始
- 2018（平成30）年 4月1日 Tokyo Tokyo FESTIVAL（2020年までの東京都の文化プログラムの総称）のプロモーション・ブランディング担当セクションを設置
- 2021（令和3）年 9月 1年延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催。大会の終了とともに、Tokyo Tokyo FESTIVALも全プログラムの展開を終了
- 2022（令和4）年 4月1日 「公益財団法人東京都歴史文化財団」の企画戦略機能を「アーツカウンシル東京」に移管
- 2023（令和5）年 4月1日 事業拡大に伴い、「活動支援部」を新設し、3部体制とする

海外ネットワークづくりなどにより芸術文化環境を整え、シンクタンク機能を充実させる「企画戦略事業」の3事業を展開



○アーツカウンシル東京のロゴマーク

「豊かな心」

アートは心を豊かにする。

マークはのどかな山、ゆったりとした道、絵筆の穂先…、想像は自由に。

Designed by 葛西薫

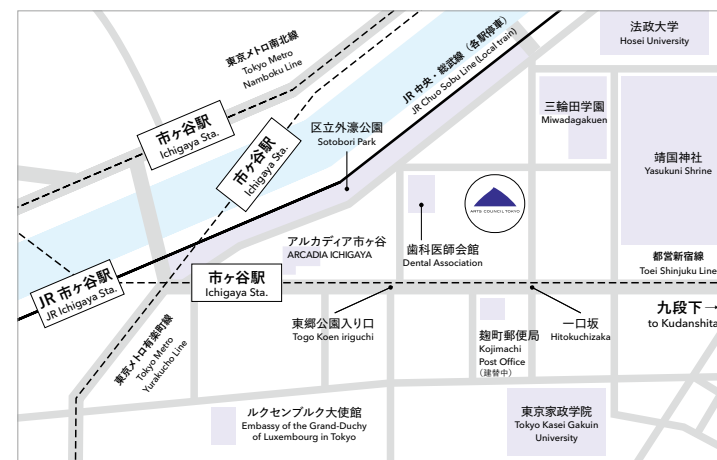
○アーツカウンシル東京所在地

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

〒102-0073

東京都千代田区九段北4丁目1-28 九段ファーストプレイス5階・8階

TEL：03-6256-8430



アクセス：

JR 中央線（各駅停車）、都営新宿線、東京メトロ有楽町・南北線「市ヶ谷」駅

都営新宿線、東京メトロ半蔵門・東西線「九段下」駅

○SNS

X（旧Twitter）：@artscouncilTYO (<https://x.com/artscouncilTYO>)

Instagram：@artscouncil_tokyo (https://www.instagram.com/artscouncil_tokyo/)

Facebook：@artscounciltokyo (<https://www.facebook.com/artscounciltokyo>)

LINE：@artscouncil-tokyo (<https://lin.ee/hVxi8F9>)

YouTube：@artscounciltokyo (<https://www.youtube.com/@artscounciltokyo>)



Arts Council Tokyo Annual Report 2024

アーツカウンシル東京2024年度活動報告

| 発行日 |

2026年3月

| 編集 |

アーツカウンシル東京企画部企画課企画係

| 編集協力 |

船寄洋之

| デザイン |

藤木敦子

| 印刷 |

藤原印刷株式会社



アーツカウンシル東京では事業報告書を公開
しております。各事業の詳細につきましては、
こちらからご参照ください。

<https://www.artscouncil-tokyo.jp/document/>

※掲載している名称、所属、肩書きなどは2025年3月31日時点のものになります。

※無断転載禁止

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

〒102-0073

東京都千代田区九段北4丁目1-28 九段ファーストプレイス5階・8階

TEL : 03-6256-8430

E-MAIL : info@artscouncil-tokyo.jp

URL : www.artscouncil-tokyo.jp



ARTS
COUNCIL
TOKYO